

第6期北海道農業・農村振興推進計画 ～地域農業・農村の「めざす姿」の取組状況～



令和5年（2023年）1月
北海道農政部農政課政策調整係

地域農業・農村の「めざす姿」

地域農業・農村の「めざす姿」は、総合振興局・振興局が、農業者や市町村、農業団体等の地域関係者とともに、おおむね10年後を見据えた地域農業・農村の目指すべき将来像と、その実現に向けた主な取組の方向を検討し、明らかにしたものです。

1 北海道の米生産をリードする魅力ある空知水田農業

主な取組の方向

- 水稲を基本とした複合経営の確立と農家所得向上
- 担い手の育成と多様な人材の確保
- 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進
- 持続可能で活力に満ちた農村の確立



援農ボランティアの取組

空知地域

2 地域を大切に、地域から期待される都市近郊農業

主な取組の方向

- 担い手や多様な人材の確保
- 都市近郊農業を活かした取組の推進
- 地域性を踏まえた生産基盤の維持・強化



女性単独就業予定の研修生

石狩地域

3 多様な人材の活躍によるブランド力ある後志農業

主な取組の方向

- 多様な担い手や人材の確保・育成
- 生産基盤等の整備と生産性・作業性の向上
- 高付加価値化農業の推進
- 鳥獣被害防止対策



外国人材など多様な人材の確保

後志地域

4 「食の宝庫」を活かして稼ぐ いぶり農業

主な取組の方向

- 農家所得の向上
- 安定した担い手・人材の確保
- いぶり農業の魅力発信



都市部からの教育旅行の受入

胆振地域

5 未来へつながる、魅力あふれる日高農業

主な取組の方向

- 生産力・収益力の高い魅力ある農業の展開
- 強い馬づくりの推進
- 新規就農者の育成・確保と雇用人材の確保
- 家畜伝染病の発生・まん延防止対策の推進



共同利用組合設立による作業の共同化

日高地域

6 小さくとも「キラリと輝く!!」道南農業

主な取組の方向

- 農業生産基盤の強化と広域的な生産体制の整備
- 経営の安定化と多様な担い手の育成・確保
- 消費者ニーズを的確に捉えた地域ブランドの確立



醸造用ぶどうの栽培

渡島・檜山地域

7 将来の担い手に選ばれる 輝く上川の農業・農村

主な取組の方向

- 担い手と雇用人材の確保
- 高収益化の推進
- 豊かで魅力ある農村の確立



高校生を対象とした研修会

上川地域

8 夢と希望に満ちた「バラエティ豊かな」留萌農業

主な取組の方向

- 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保
- 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立
- 活力と魅力あふれる農業・農村づくり



るもい農業基礎ゼミナール

留萌地域

9 “最北”の強みを活かし、未来を担う人材が活躍する宗谷酪農

主な取組の方向

- 多様な経営体の生産性向上
- 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域の確立



SOYALルーキーズカレッジ

宗谷地域

10 オホーツクの広大な大地で“クール”に農業

主な取組の方向

- 持続可能で先進的な農業の展開
- 経営体を支えるシステムの推進
- オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着
- オホーツク農業のブランド力向上



研修機能付き生産法人の設立

オホーツク地域

11 日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝

主な取組の方向

- 多様な人材が活躍する農業・農村
- 安定的な食料の生産・供給拠点の形成
- ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大
- 新たな価値を生み出す科学技術等の活用



退職予定自衛官向けインターンシップ

十勝地域

12 我が国の酪農を牽引し続け、次の世代が夢をもつことのできる農業・農村

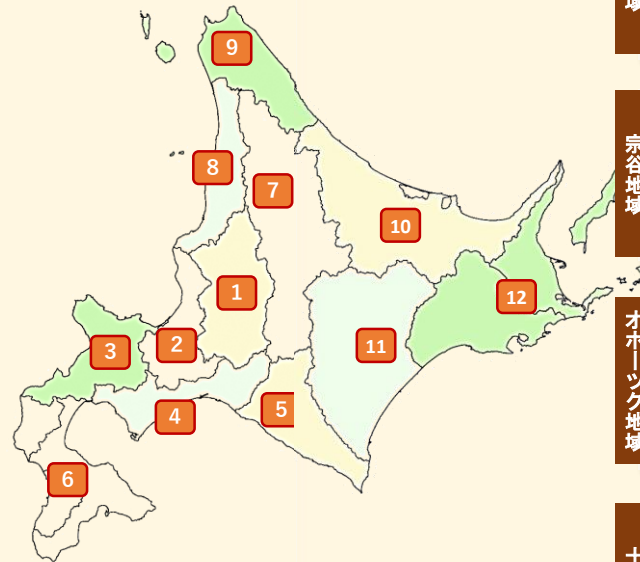
主な取組の方向

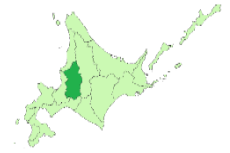
- 草地型（循環型）酪農の推進
- 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保
- 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求



子育て支援施設「えみふる」

釧路・根室地域





めざす姿の実現に向けた取組方向

- (1) 水稻を基本とした複合経営の確立と農家所得の向上
 - 空知産米の更なるブランド力の向上と消費拡大
 - 適正な輪作体系の確立や野菜・花きなどの園芸作物の安定生産
- (2) 担い手の育成と多様な人材の確保
 - 経営力や技術力を向上させる実践的な研修や地域でサポートする取組を推進
 - 農福連携など多様な人材の受入に向けた取組や就業条件の整備などの対策の推進
- (3) 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進
 - ほ場の大区画化・汎用化、排水対策など、生産力の強化、防災・減災につながる基盤整備を計画的に推進
 - 水田の水管理システムやロボット農機など、地域や個々の営農に応じたスマート農業技術の導入促進
- (4) 持続可能で活力に満ちた農村の確立
 - 農村ツーリズムの推進など、都市・農村交流の促進により交流人口の拡大
 - 多面的機能を支える地域の協同活動を促進するとともに、中山間地域等における生産活動の継続する取組を推進

令和4年度の取組状況

- (1) 水稻を基本とした複合経営の確立と農家所得の向上
 - 北海道どさんこプラザで、空知産農畜産物をPRする「空知フェア」の開催や、「北海道花の日」に管内の商業施設で花を配布する等、「そらちの花」のPRを実施。
 - 「空知型輪作」や野菜・花きなどを含めた複合経営を推進。
- (2) 担い手の育成と多様な人材の確保
 - 次代の農業経営を担う後継者や法人従業員、新規参入者へスマート農業や省力化学品目を学ぶ研修会を開催。
 - 農福連携の体験会や、空知管内の就農定着を目的とした学生向けのワーキングホリデーを実施。
- (3) 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進
 - スマート農業の実現に向けた基盤整備事例を用いて、農地整備事業(中山間地域型)などを計画的に実施。
 - 市町・農業関係機関・団体、普及・研究組織からなる「空知スマート農業推進協議会」において、シンポジウムの開催やアーカイブの作成等により先進的な技術の情報を共有。
- (4) 持続可能で活力に満ちた農村の確立
 - 管内関係機関に対し、北海道農泊推進ネットワーク会議への参画を呼びかけ。
 - 農業・農村の有する多面的に係る農地維持や地域資源の質的向上のための協同活動を支援。



「北海道花の日」に「そらちの花」をPR



基盤整備事業によるほ場の大区画化



美唄市でのドローンのシェアリング事業の実証

現状と課題

- 空知管内の新規就農者数は、平成25年までは年間100人程度で推移してきたが、直近では、90人を下回るなど新規就農者の確保が課題。
- 農業にとって、人口減少による雇用労働力確保は容易ではなく、長年雇用してきたパート従業員の高齢化もあり、従来の雇用形態ではなく、新たなパートナーの検討と対策が必要。

体制図（農福連携）

農業者

福祉事業所等

連携

行政（空知総合振興局・岩見沢市）
JA

取組の概要

- 新規就農者向け研修
 - ・ 次代の農業経営を担う後継者や法人従業員、新規参入者へスマート農業や省力化品目を学ぶ移動研修を10月28日に実施し、15名が参加。
 - ・ 農業を学ぶ学生向け研修空知の農業を知ってもらい、空知管内の就農定着を目的としたワーキングホリデー（農作業アルバイト）を8月8日～31日の期間で数日単位で実施し、農業を学ぶ学生8名が参加。
- 農福連携
岩見沢地域を中心として、農業の新しいパートナー作りを行うため、農福連携に取り組んだ。
農業者×協力事業所×行政JAが連携し、事業所の体験会などを行い、協力事業所や農業者の理解を深めた。



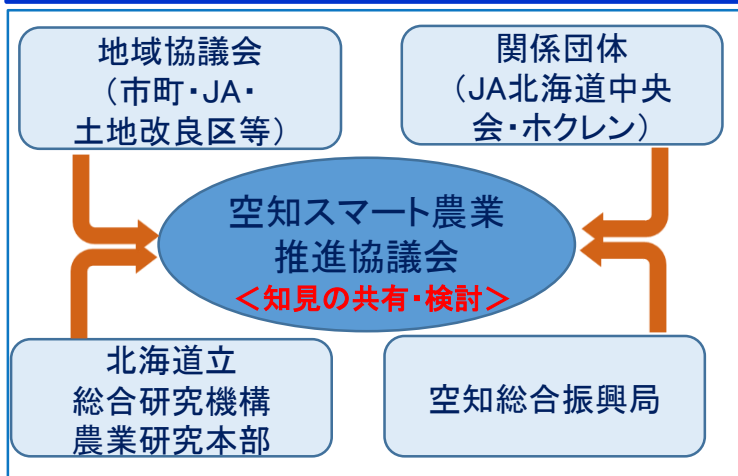
取組成果と今後の展開

- 農福連携に取り組む農業者が2名増加した。
- 農福連携に興味のある福祉事業所、農業者と体験会や協議を継続し、新たなパートナーづくりに取り組むとともに地域に根付いた取り組みとなるよう支援する。

現状と課題

- 農家戸数の減少や高齢化等に伴う労働力不足を解決するためには、ロボット、AI、ICT等の先端技術を活用したスマート農業を積極的に推進していくことが必要。
- 空知地域の営農体系に即したスマート農業の効果的な活用方法を検証し、管内全体で情報提供及び共有を深化させるため、令和3年12月に管内関係機関・団体で構成する『空知スマート農業推進協議会』を設置。

体制図



取組の概要

- 空知管内におけるスマート農業あり方の検討とその普及推進の加速化を図るための取組として、「空知スマート農業アクションプラン」を令和4年5月に策定。
- ① スマート農業機械等の活用状況の把握
スマート農業機械等を効果的に運用している農業者等への取組事例調査を実施。
- ② 「空知スマート農業アーカイブ」の作成
管内各地で実施されているスマート農業の実証試験の結果等を集約し、先進的な技術に係る情報を構成員間で積極的に共有。
- ③ そらち流「スマート農業」推進事業の実施
地域協議会が実施するスマート農業の実証試験を支援し、定量的な実証データを把握。
- ④ 「スマート農業で目指す姿」の検討
 - ・ 「普及推進検討会」(意見交換会)を4地域で開催し、空知に即したスマート農業のあり方を検討
 - ・ 「空知スマートアグリシンポジウム2022」を開催し、道内外の優良事例を共有。
(参加者:150名)



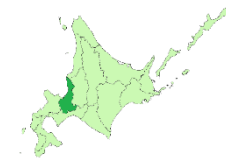
そらち流「スマート農業」推進事業(ドローン等による防除剤の付着率比較試験)



空知スマートアグリシンポジウム2022

取組成果と今後の展開

- 空知管内で活用できる実証試験データが5事例増加
- 事業の継続的な実施により、空知管内の営農形態に即した実証試験データの更なる充実を図るとともに、「空知スマートアグリシンポジウム」をはじめとした協議会活動により、得られた知見が広く共有される体制を継続



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 担い手や多様な人材の確保の取組

- スマート農業技術などを活かし、農地や農業技術が次世代の担い手へ円滑につながるよう、農業技術データ化など地域関係者間の情報連携を図る
- 農業や関連産業が就職の選択肢として選ばれる地域農業の情報発信

(2) 都市近郊農業を活かした取組

- 大消費地への供給を支える地域の農業と農畜産物の認知度向上とともに、消費者や食品加工事業者等のニーズに応える生産体制などの確立を推進
- 次世代につなげる食育活動により、幅広い年齢層へ向けた地場産物の理解促進
- 地場産物の供給場所であり、地域住民と農業者との交流拠点となる直売所の維持発展を推進

令和4年度の取組状況

(1) 担い手や多様な人材の確保の取組

- スマート農業の地域定着に向けた実演会を管内指導農業・農業士会、新篠津村ICT農業研究会、石狩農業改良普及センターと共催で管内一円を対象に実施
- 都市近郊農業及び関連産業への就農・就業・定着を促す取組として、「新・農業人フェア」への参加のほか、地域での環境モニタリング技術を用いた新規就農者等の定着に向けた取組を実施



ドローン実演(実演会)

(2) 都市近郊農業を活かした取組

- 地産地消や地域農畜産物の理解促進のため野菜等の専門意識をもった「野菜ソムリエコミュニティ札幌」と連携し、管内農畜産物直売所等との意見交換会を実施
- 将来的な地域農畜産物の認知度向上や若い世代への食育活動として、札幌ベルエポック製菓調理ウェディング専門学校と連携し、生産者との交流や作業体験を通じた現地学習を実施



基調講演(意見交換会)

現状と課題

- 都市近郊で農業が展開されており、地域住民と農業者との交流拠点となる直売所や農業体験などを行える農園も多く、地域資源である「農」と「人」の結びつきを深めやすい。
- 次世代につなげる食育活動や農業が地域に果たす役割を伝えることで、幅広い年齢層へ向けた地域農業及び地場産品への理解促進を図る必要がある。

体制図

「農」と「食」をつなぐ多様なサポーターづくり

○野菜ソムリエや学生など
・地域の魅力を発信する人材
・次世代の理解ある担い手

○振興局(農務課)
・人材や担い手づくりのための企画立案・実施調整(セミナーなど)

○管内市町村・農協、農業改良普及センター等
・食育学習、バスツアー実施協力

取組の概要

- 「農」と「食」をつなぐインフルエンサー(人材)づくり
 - ・ 地産地消や農畜産物の特徴を広く情報発信していくため、野菜・果物の栄養や料理方法などの専門知識をもった野菜ソムリエの団体である「野菜ソムリエコミュニティ札幌」と連携し、野菜ソムリエを対象に現地研修会を9月に実施
 - ・ 12月に、生産者や直売所なども対象とし、荒川教授(札幌保健医療大学)による基調講演のほか、管内直売所の取組紹介、野菜ソムリエ考案の管内農畜産物を使ったレシピの試食を行い、地域の魅力発信のための効果的なPR等について意見交換会を実施
- 次代の「農」と「食」をつなぐ学生(調理師)との連携

将来的な石狩管内の農畜産物等の知名度向上や消費拡大を目指し、若い世代に地産地消への理解を深めてもらうため、将来、シェフや飲食店勤務を目指す学生が在籍する「札幌ベルエポック製菓調理ウェディング専門学校」と連携して、石狩北部域(札幌市、石狩市、当別町、新篠津村)で地域食材の水稻やブロッコリーをテーマに食育授業を実施



農場での取組の説明風景



野菜ソムリエ考案のレシピ



食育事業を実施(全5回)

取組成果と今後の展開

- インフルエンサーの取組では延べ84名が現地研修会、意見交換会に参加し、地域の魅力を団体や個人でWEB紹介するなど成果を上げている。
- 令和5年度以降もインフルエンサーや学生との取組を継続し、地域の食のブランド化に繋がる「農」への理解促進を進めていく。

現状と課題

- 農業者の高齢化が進行していることから担い手不足が一層深刻化していくため、農家子弟や新規参入者などの若者の地元定着を促進し、担い手や多様な人材の確保に取り組む必要がある。
- 多様な担い手の経営形態に即した、ICTなどのスマート農業技術を選択・導入しやすい環境づくりため、地域関係者間の情報連携を図る必要がある。

体制図

農家子弟や新規参入者などの若者の地元定着

○地域の農業者・行政

- ・次世代の担い手へ円滑に繋がる環境づくり
- ・地域にあったスマート農業技術の検討

○石狩振興局
(農務課、農業改良普及センター)
・実演会、セミナーの企画立案、実施調整

○関係団体、企業
・ホクレンやスマート農業機器取扱企業による出展等の協力

取組の概要

○ 地域課題の解決手段となりえるスマート農業技術

- ・ 情報通信技術 (ICT) やロボットなどを使う営農技術であるスマート農業技術の初の実演会を、管内指導農業士・農業士会、新篠津村ICT農業研究会等と共催で、新篠津村において管内農業者及び関係機関を対象に8月に開催
- ・ 実演会では、メーカー9社の協力によりロボットトラクタやロボット田植機などの展示のほか、5機種のドローン実演を実施



スマート農業機器の展示

○ スマート農業技術による栽培管理の見える化

- ・ 新規就農者等が安定的に高収益作物等(ミニトマト、花き)を生産できるよう、環境モニタリング技術と生育実態調査を合わせて行い、地域栽培データを活用できるよう実証を実施(石狩市、新篠津村)



ミニトマトの生育実態調査

○ 道外(東京都)での管内農業PR

- ・ 都市近郊で農業が展開されている「石狩」管内の農業を紹介するため7月にブースを出展
- ・ 北海道での就農を検討している来場者(道外出身者等)からの相談に対応



東京都での出展ブース

取組成果と今後の展開

- 8月の実演会には生産者など178名が参加したほか、地域実証では栽培管理の見える化を活用した地域担い手育成などに成果を上げている。
- 今後も担い手定着に向け、データに基づいた指導方法や地域受入対応の平準化など多様な人材の受入体制強化を進めていく。